

災害・避難カード

事例集



平成26年8月17日
兵庫県丹波市
死者1名

平成26年7月9日
長野県南木曾町
死者1名



いざ！というときの避難のために

平成26年8月20日
広島県広島市
死者75名

過去30年間で
最悪の被害



災害から命を守る！

平成25年10月16日
東京都大島町
死者・行方不明者
39名



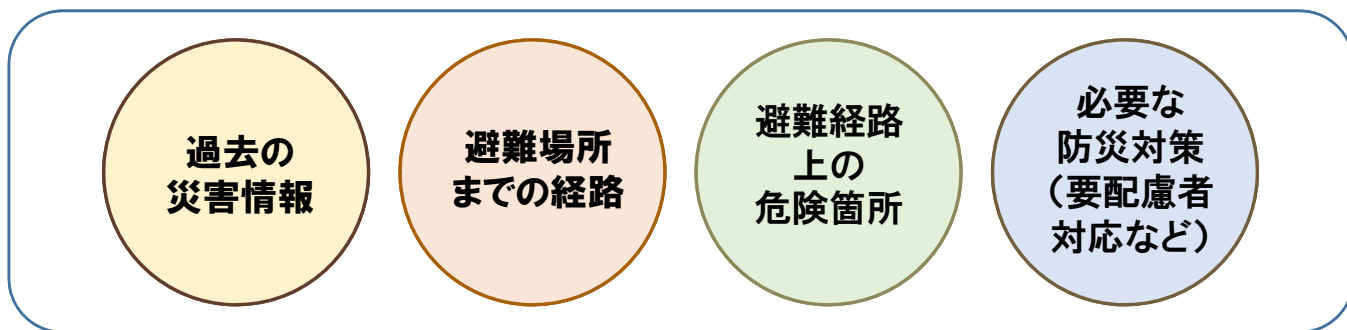
【ご久留地区】災害避難カード（避難のタイミング、避難方法の確認）			
<p>わたしの災害避難カード</p> <p>避難するべき時期</p> <p>避難するべき場所</p> <p>避難するべき方法</p> <p>避難するべき時期</p> <p>避難するべき場所</p> <p>避難するべき方法</p>	<p>いつ？</p> <p>（避難のタイミング）</p> <p>避難するべき時期</p> <p>避難するべき場所</p> <p>避難するべき方法</p>	<p>どこに？</p> <p>（避難方法、避難場所）</p> <p>避難するべき時期</p> <p>避難するべき場所</p> <p>避難するべき方法</p>	<p>自分から避難しよう！</p> <p>（避難の準備、避難の準備）</p> <p>避難するべき時期</p> <p>避難するべき場所</p> <p>避難するべき方法</p>
<p>誰に声かける？誰と避難する？</p> <p>避難するべき時期</p> <p>避難するべき場所</p> <p>避難するべき方法</p>		<p>緊急時、避難時の状況を誰に連絡する？</p> <p>避難するべき時期</p> <p>避難するべき場所</p> <p>避難するべき方法</p>	

内閣府(防災担当)

はじめに 「災害・避難カード」とは？

■ 自然災害による被害の軽減のためには、
住民自身による適時適切な避難がきわめて重要！

■ 避難すべき場所などをあらかじめ認識しておくための
仕組みとして「災害・避難カード」を作成する！



これらの情報を、水害・土砂災害等 災害種別毎に整理



● 災害・避難カード(●●地区××)

災害種別ごとに避難行動の内容と避難の合図について整理した「タイミング表」

避難場所までの経路などを記載した「マイマップ」



災害	避難先・場所	避難の合図
土砂災害	A小学校 (そこまで逃げられない場合はBマンション)	土砂災害警戒情報
X川のはん濫	C市民会館	はん濫危険情報

※災害に巻き込まれないために、日頃からどのような情報に注意すればいいのか確認しておきましょう！

出典：「土砂災害から身を守る！」パンフレット（内閣府（防災担当））

作成した「災害・避難カード」は、

- * 自宅の冷蔵庫など普段、目にとまる場所
- * 財布の中へ入れて持ち歩く

(参考) 平成27・28年度モデル地区の例

名刺タイプ(携帯可能なサイズ)の災害・避難カード

- 避難の際に携帯し、何か起きた時には、**他の人に自分のことが伝わるように**している。

(愛媛県大洲市
三善地区自主防災組織)

～主な記載内容～

【左のカード】

- ・氏名
- ・住所
- ・生年月日
- ・血液型

【右のカード】

- ・頼りになる人の緊急連絡先
- ・災害伝言ダイヤルの使い方

※

避難場所等は、別途作成しているマップに記している。

- **赤い紐で首からかける**「災害・避難カード」
普段は室内の目立つ場所にかけておき、災害のおそれがある際は、首からかけて避難する



- A4版の大きさで、3名分のカードを作成することができ、**切り取り二つ折りで名刺台**の大きさとなる

(石川県小松市
岩淵町町内会)

～主な記載内容～

【左のカード】

- ・氏名
- ・住所
- ・生年月日
- ・血液型

【右のカード】

- ・緊急連絡先
- ・避難場所
- ・避難の合図
- ・避難行動の内容

(参考) 平成27・28年度モデル地区の例

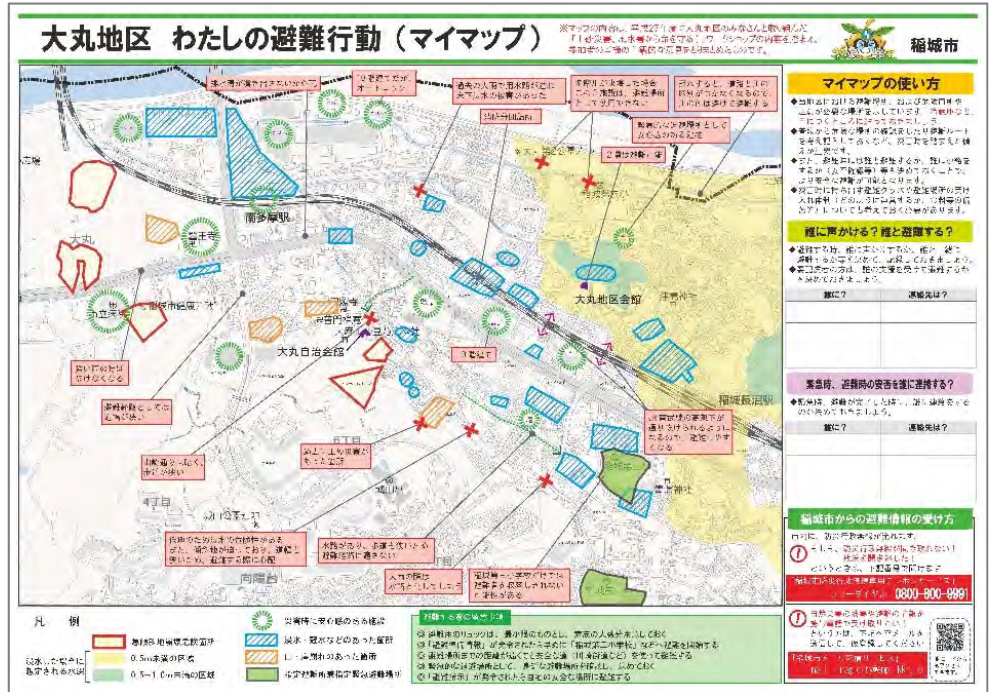
避難場所や避難ルートを記したマップ形式の災害・避難カード

- マイマップは、自宅の冷蔵庫などの目に留まる場所に掲示しておくことを想定している

(東京都稲城市
大丸自治会)

～主な記載内容～

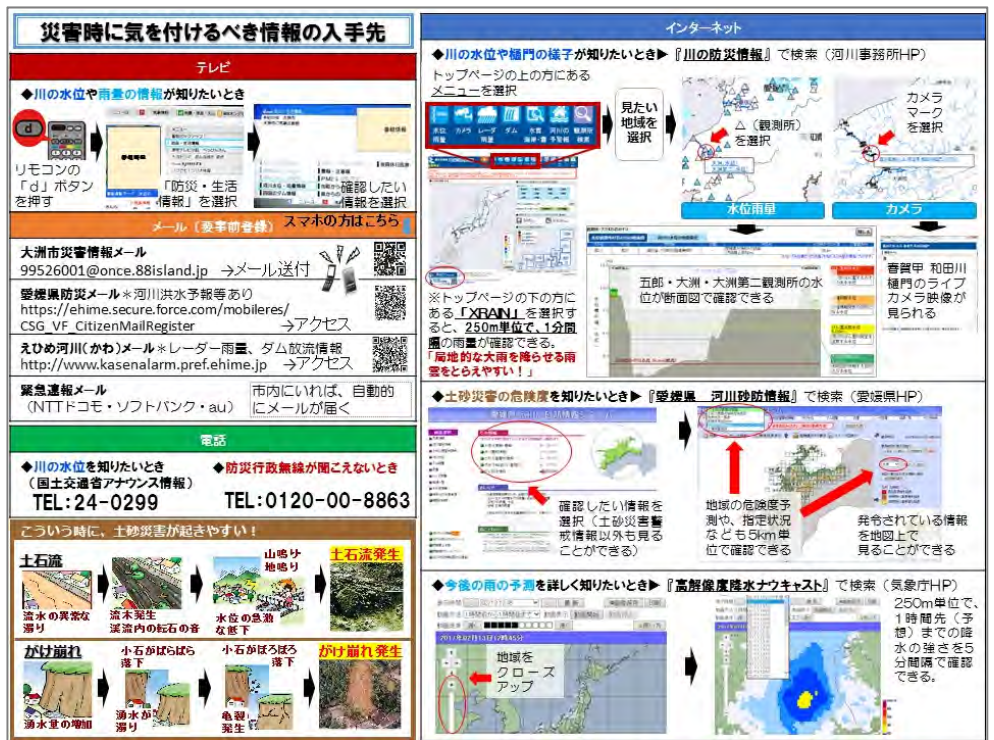
- ・避難場所
- ・地区の危険箇所 (浸水想定区域等)
- ・過去の災害状況
- ・避難時の留意点等



- マップの裏面にワークショップで、関係機関から提供のあった資料・情報を整理して作成

(愛媛県大洲市
三善地区自主防災組織)

- ～主な記載内容～
- ・災害情報の入手先
- ・入手の手順
- ・土砂災害の前兆

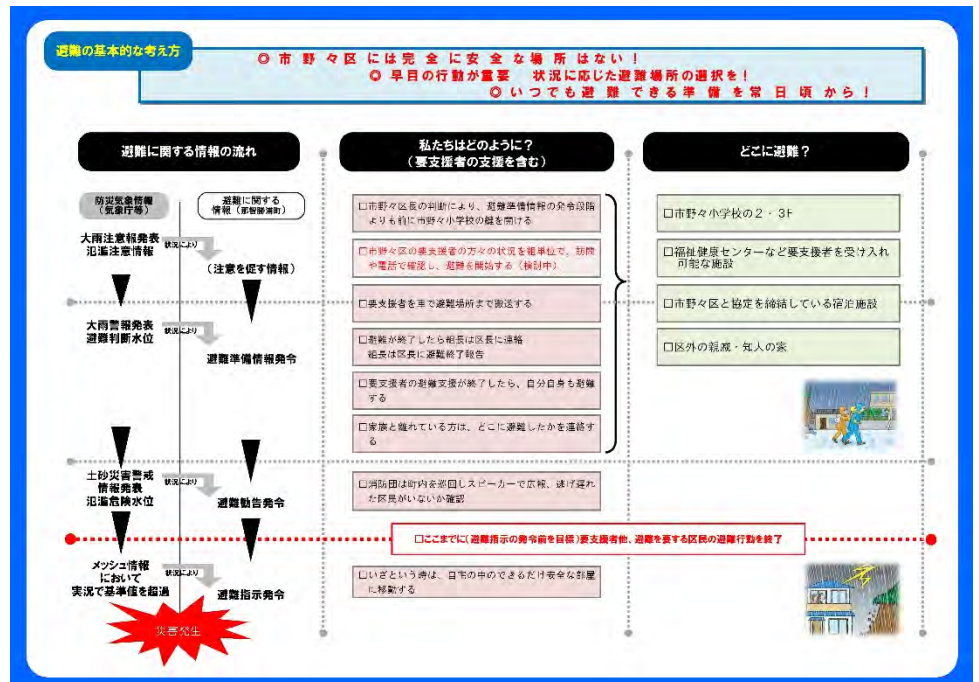


(参考) 平成27・28年度モデル地区の例

避難行動のタイムラインを記した災害・避難カード

■ 5ページのステップ4までの内容をとりまとめると**地区全体の避難行動**についてもまとめることが可能

(和歌山県那智勝浦町市野々区)



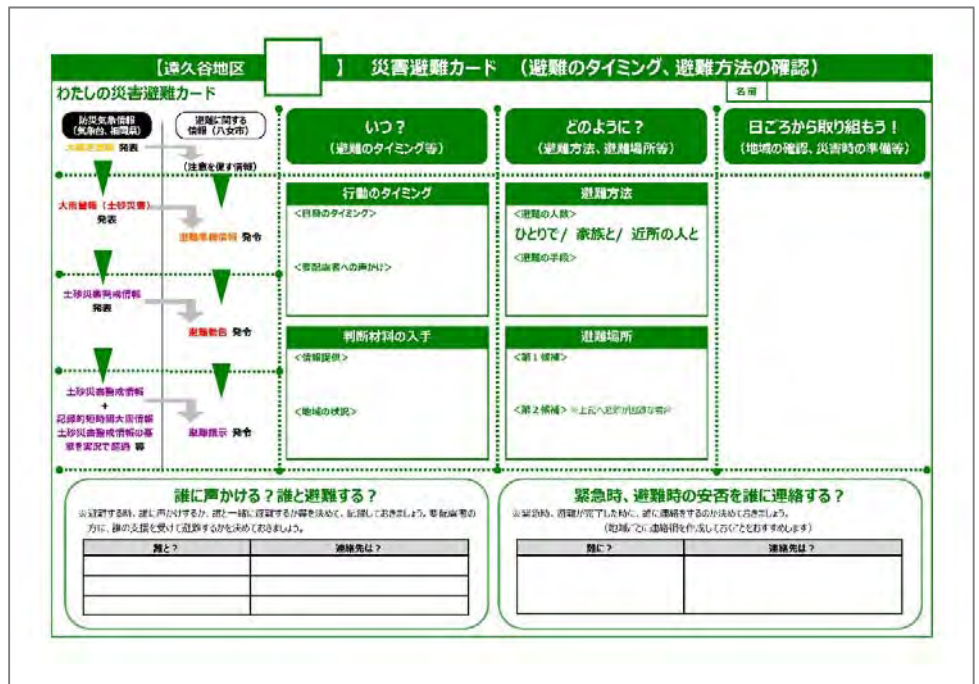
- 要配慮者をどのように支援しながら避難するのかなどを検討
- この手引きは、地区内の全世帯に配布

■ 避難の**タイミング**と、**誰と避難をするか**を明確にしている

(福岡県八女市立花町遠久谷行政区)

➢ ワークショップにて、避難のルールを話し合い、カードを作成

➢ 加えて、今後の避難対策として、どのような取組が必要かを話し合った



1. 「災害・避難カード」の作成手順

取り組みを受けて、
継続的にカードを見直していく

ステップ1 まずは取組の進め方を

⇒P.7へ

確認しましょう

- ・進め方やアウトプットについて、意見交換
- ・自治体、自治会・町内会の防災対策の現状と課題を共有



ステップ2 身のまわりにどんな災害リスクが

⇒P.9へ

あるか考えましょう

- ・防災関係機関からの情報提供
- ・過去の災害での避難行動、現状の防災対策等について意見交換



ステップ3 実際にまち歩きをして

⇒P.15へ

確認してみましょう

- ・災害の危険箇所、頼りになる場所、避難経路を地図上で確認
- ・上記等をまち歩きで確認、気づいたことを地図上に記入



ステップ4 「災害・避難カード」を

⇒P.16へ

つくってみましょう

- ・まち歩きで確認した内容、災害時に提供される情報をもとに、各自がどのタイミングで、どこに避難するのか検討

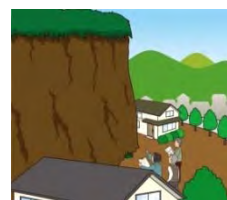


ステップ5 「災害・避難カード」を

⇒P.18へ

使ってみましょう

- ・「災害・避難カード」を活用した避難訓練を実施
- ・家族や地区の方々に「災害・避難カード」を普及させる



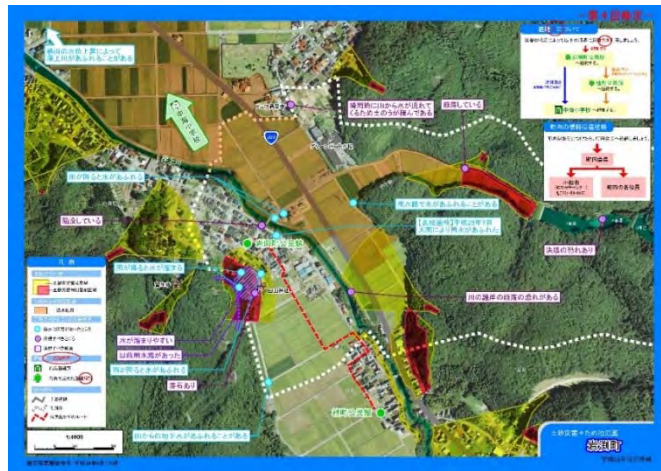
※これは、進め方のモデルであり、地区の実情や取り組むべき課題を踏まえながら検討します

(参考) 他の機関の事業と連携して取り組む

都道府県の取組との連携

- ▶ 石川県が実施する「防災意識向上プログラム」の一環として地区オリジナルの防災マップ作成

(石川県小松市 岩瀨町町内会)



- ▶ 防災マップの作成と連携し「災害・避難カード」を作成



国の取組との連携

- ▶ 内閣府で取り組んでいる避難対策の取り組みと連携し、情報共有や意見交換を実施

(東京都葛飾区 東新小岩七丁目町会)

洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難検討ワーキング

- ◇第1回(9月13日)
 - ・ワーキンググループ全体の検討事項、進め方
- ◇第2回(12月面)
 - ・「二次的な人的被害リスク」を軽減させるための課題整理と改善方策
- ◇第3回(2月面)
 - ・「避難行動の実現困難度」を軽減させるための課題整理と改善方策
- ◇第4回(来年夏)
 - ・域内避難と域外避難の組合せの考え方
- ◇第5回(来年秋)
 - ・適切な避難行動に近づくための社会環境の整備
- ◇第6回(来年冬)
 - ・全体の制度設計、とりまとめ

○ワーキングでの論点

- ・地区毎の避難開始タイミングの考え方
- ・立退き避難時の混雑緩和の考え方
- ・浸水区域内に留まらざるを得ない場合の考え方
- ・市区町村の境界を越えた避難所確保の考え方
- ・避難・救出のための氾濫水制御の考え方
- ・国・都府県の関わり方 など

基本的な考え方の提案
 連携
 地域から問題提起
 具体的な避難方法等の提案

東新小岩七丁目町会 “犠牲者ゼロ” ワークショップ

- ◇第1回(10月29日)
 - ・地区の災害リスク等について理解する!
 - ・葛飾区における避難に関する考え方や取組を知る!
- ◇第2回
 - ・域内避難や域外避難のメリットや課題を理解する!
 - ・各個人や世帯の避難行動の方法を考える!
- ◇第3回
 - ・これまでの東新小岩七丁目町会の取組を踏まえ、“犠牲者ゼロ”の実現に向けた今後の取組を考える!
- ◇第4回
 - ・東新小岩七丁目町会、地区住民の避難行動の方法に関するとりまとめ
- ◇第5回
 - ・東新小岩七丁目町会、地区住民の避難行動の方法をみんなで確認!
- ◇第6回
 - ・地震や水害時の対応、避難の心得を、各個人や世帯で検討・整理

(域内避難)改善策についての検討例

※浸水区域内に避難するための避難所(葛飾区東新小岩七丁目災害対策センター)

- 自治会内の逃げ遅れた住民の補助や食料支援を自治会で実施する計画を立案
- 自治会内で救助・支援を担う専門組織を設け、自治会でボートを購入し、定期的に訓練を実施

避難行動の順序

- 浸水想定区域外へ避難
- 避難行動の余力
- 逃げ遅れた人は、近くの3階以上の建物へ避難
- 浸水発生後

ボートの訓練

■市民組織のボートが主の体制

本町会に会長、副会長、書記、幹事、連絡係、情報係、調整係、広報係、事務局、総務係、会計係、庶務係、保健係、衛生係、防災係、消防係、救急係、警備係、交通係、清掃係、その他(5~10名程度)

「乗換」を助けているボートと、乗換を待っているボート

救助隊のサイン

救助隊のサイン

- ▶ 内閣府のワーキングにて、東新小岩七丁目町会の取組を紹介

2. まずは取組の進め方を確認しましょう

対象とする地区のみなさんに実施概要を説明し、進め方やアウトプットについて意見交換

対象地区の災害リスクの共有化
(過去の災害発生状況、ハザードマップ、土砂災害警戒区域等指定状況等)

自治体における防災の取組・体制の現状について共有化
(避難情報の判断基準、避難行動マニュアル、避難場所の指定状況、防災関連施設の現状等)

自治会・町内会で抱えている防災対策上の課題の共有化
(地区住民の防災意識、要配慮者の支援体制、自主防災組織の役割・体制の明確化等)

自治会・町内会への参加者選定の依頼

市町村の他、都道府県、国土交通省、気象台などの防災関係機関、学識経験者の参画を検討

何回の話し合いで「災害・避難カード」の取り組みを実施するのか、またスケジュールの確認



※これらは取組の一例です

「事前打ち合わせ」の実施例

～「東京都稲城市 大丸自治会」～

- 図面を広げながら、地区の状況を確認
- 地区の現況や防災対策上の課題を自治会、自治体で共有



～「岡山県美咲町 川北自治会」～

- 自治会、町役場総務課、県危機管理課と打合せを実施
- 関係者で地区の状況や課題を現地にて確認



(参考) 進め方が決まったら？

地区の方々へ参加を呼びかける

- 取り組みを実施する旨を周知するためのチラシを作成し、取組の開催前に配布

～「東京都稲城市 大丸自治会」～

平成27年度
大丸自治会防災イベント

災害・避難カード
避難勧告...指定緊急避難場所...わかりますか?
ア ブ ナ イ と き に
り の 避 難 す る ?
命を守る方法はご家庭によってちがいます!!
8月30日～9月5日は防災週間
避難行動について考えよう
8/25 (火) 9時～
集合場所:大丸自治会館
内閣府

自然災害から自らの命、家族の命を守るために！

地域で起こり得る災害の危険性を共有し、みんなで避難方法を再確認しませんか？

自然災害による被害の軽減のためには、住民のみならず自身による適時適切な避難がきわめて重要です。
このたび、大丸自治会では、内閣府の支援を受けながら、「自然災害から命を守る！ワークショップ」を開催することとなりました。
改めて、地域で起こり得る災害の危険性をみなさんとともに共有化し、避難行動の方法を考える良い機会です。多くの参加をお待ちしています。
「自然災害から命を守る！ワークショップ」は、つぎの内容で実施する予定です。

第1回（8月25日）
◆地域で起こり得る災害の危険性を共有化する！
-まち歩きとともに、国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所や地域の方などから、地域の災害危険性（水害、土砂災害）についてお話しください。

第2・3回（10～11月）
◆私の「災害・避難カード」をつくろう！
-地域で起こり得る災害の危険性を踏まえて、水害、土砂災害の個別毎に、どのような経路で、どこへ避難すべきか地図上で整理し、自分自身の「災害・避難カード」をつくりまします。

第4回（12月）
◆地域の「防災・虎の巻」をつくろう！
-「自衛」として日頃から実施しておくべきこと（例：非常用持ち出し品の準備等）、「共助」としてできること（例：避難時に要配慮者へ声かけする等）をみんなで話し合い、避難行動の方法とともに、地域の「防災・虎の巻」をつくりまします。

参加を希望される方はこちらへ
◆大丸自治会自主防災組織
【お問い合わせ先】
稲城市消防本部 防災課 防災係
電話：042-377-7119 F A X：042-377-0119 E-mail: shokubousai@city.inagi.lg.jp

～「岐阜県安八町 西結中組区」～

実施内容を記載

過去の水害の写真を掲載

平成27年度
西結・中組地区防災イベント

災害・避難カード
避難勧告...指定緊急避難場所...わかりますか?
ア ブ ナ イ と き に
り の 避 難 す る ?
命を守る方法はご家庭によってちがいます!!
12/5 (土) 13:30～
集合場所:中組集会所
内閣府

自然災害から自らの命、家族の命を守るために！

地域で起こり得る災害の危険性を共有し、みんなで避難方法を再確認しませんか？

自然災害による被害の軽減のためには、住民のみならず自身による適時適切な避難がきわめて重要です。
このたび、西結・中組地区では、内閣府の支援を受けながら、「自然災害から命を守る！ワークショップ」を開催することとなりました。
改めて、地域で起こり得る災害の危険性をみなさんとともに共有化し、避難行動の方法を考える良い機会です。多くの参加をお待ちしています。
「自然災害から命を守る！ワークショップ」は、つぎの内容で実施する予定です。

第1回（12月5日）
◆地域で起こり得る災害の危険性を共有化する！
-国土交通省本管川上流河川事務所から、地域の災害危険性（水害）についてお話しくださいとともに、岐阜県や安八町役場から、防災の取り組みや避難行動の方法について情報提供いただく予定です。

第2回（日程調整中）
◆まち歩きを体験！
-安八町のハザードマップに基づき、浸水想定区域を確認するとともに、避難場所や避難経路の状況について、まち歩きを通して確認する予定です。

第3回（日程調整中）
◆水害時の西結・中組地区の避難方法を考える！
-「災害・避難カード」の作成を含め、西結・中組地区における避難方法を検討します。
-また、避難行動要支援者の方々への避難支援方法についてもみなさんと検討する予定です。

参加を希望される方はこちらへ
【お問い合わせ先】
中組区長 堀 新美
電話：0584-62-7402 携帯：090-4446-5524

3. 身のまわりにどんな災害リスクがあるか考えましょう

地区の**災害リスク**、自治会・町内会や自治体における**防災対策の現状**について、地区のみなさんと共有化

対象地区の**災害リスク**の共有化
(過去の災害発生状況、ハザードマップ、土砂災害警戒区域等指定状況等)

自治体における防災の取組・体制の現状について共有化
(避難情報の判断基準、避難行動マニュアル、避難場所の指定状況、防災関連施設の現状等)

自治会・町内会で抱えている**防災対策上の課題**の共有化
(地区住民の防災意識、要配慮者の支援体制、自主防災組織の役割・体制の明確化等)

市町村の他、学識経験者、都道府県、国土交通省、気象台などの**防災関係機関から情報提供**

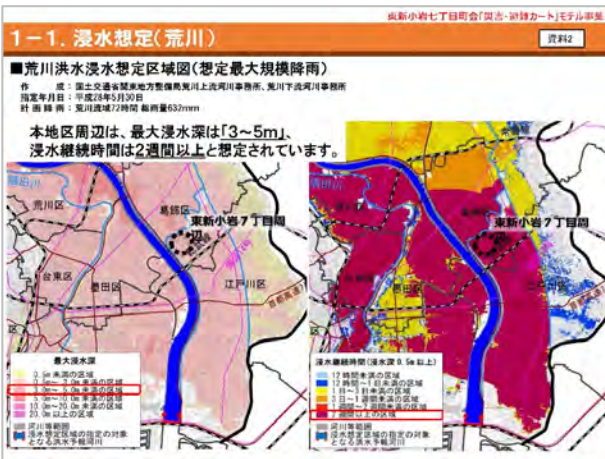
※これらは取組の一例です



防災関係機関からの情報提供

- 自治会側は、知りたい情報、疑問点などを事前打ち合わせで要望し、情報提供を受けることができる
- 自治体側は、普及・周知したい情報や取組に関する情報を提供することができる

地域の正しい災害リスクを知ることができる



- 国土交通省が平成28年5月に発表した想定しうる最大規模の降雨に関して、**当該地区の浸水区域や浸水継続時間**について、内閣府から説明

(東京都葛飾区
東新小岩七丁目町会)

- 関係機関からの情報提供と説明によって、避難対策に取り組むにあたって、想定しておくべき災害と、そうでない災害(右図は、当該地区には大きな影響がないことを示している)を**正しく理解した上で、検討を進める**ことができる



(参考) 平成27・28年モデル地区での情報提供の実績

被害想定のお考えとイメージを知ることができる

想定最大降雨量の算出フロー 大洲河川国道事務所

➤ 肱川流域での想定最大規模降雨量は、「⑩瀬戸内」の最大降雨量分布から、当該河川の流域面積(基準地点上流域)と同じ面積におけるブロック内の任意区域の最大雨量を設定

STEP 1 肱川の位置するブロックを設定

STEP 2 肱川の流域面積(大洲上流域)と降雨継続時間を設定

流域面積 1,009km²
降雨継続時間 48時間

STEP 3 当該河川の流域面積と同じ面積でブロック内の任意区域の最大雨量を調査

区域面積 1,009km²
48時間最大雨量 811mm

STEP 4 最大雨量を肱川の雨量に適用し、「想定し得る最大規模の降雨」として決定

適用 流域面積 1,009km²
48時間最大雨量 811mm

➤ 想定最大規模降雨の降雨量については、それを設定する河川における降雨だけでなく、近隣の河川等における降雨が当該河川等でも同じように発生すると考え、日本を降雨特性が似ている15の地域に分け、それぞれの地域において観測された最大の降雨量により設定することを基本とする。

出典: 洪水想定(洪水、内水)の作成等のための想定最大外力の設定手法

-21-

- 国土交通省が平成28年5月に発表した想定しうる最大規模の降雨に関して、どのような考え方で算出しているか、**国土交通省から直接、地域住民の方に対して説明**

(愛媛県大洲市
三善地区自主防災組織)

洪水浸水想定区域図(想定最大規模) 春賀地区 浸水範囲 大洲河川国道事務所

大洲市役所 三善公民館
約9.0m浸水

三善小学校
約10.0m浸水

※洪水浸水想定区域図のシミュレーション結果

-27-

- 国土交通省から、計画規模と想定最大規模の洪水浸水想定区域と、その時の浸水深のイメージの違いについて、**現地の写真を用いてわかりやすく説明**

(愛媛県大洲市
三善地区自主防災組織)

洪水浸水想定区域図(計画規模) 春賀地区 浸水範囲 大洲河川国道事務所

三善小学校
約1.0m浸水

※洪水浸水想定区域図のシミュレーション結果

-26-



- 参加者からは、その場で質問を受け付け、理解を深める

(参考) 平成27・28年モデル地区での情報提供の実績

災害が起きた時の状況について知ることができる

土砂災害と水害の違い		
	<p>土砂災害</p> <p>がけ崩れ 土石流 地すべり</p> 	<p>水害</p> <p>外水氾濫 内水氾濫</p> 
災害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○局所的に被害が発生 ○降雨を起因として発生し、突発的に被害が発生 ○土砂と石礫が高速で移動するため、家屋の破壊を生じ、人的被害が発生しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ○比較的広域に渡って被害が拡大 ○河川の水位上昇に伴い、徐々に浸水域、浸水深が増加 ○破堤による外水氾濫(河川からの氾濫)では家屋の破壊を生じるが、内水氾濫(排水しきれない)では家屋の浸水が大半
避難行動に関する特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○目視による確認が比較的难度であるため、危険性を認識しにくい ○降雨や地形、地質等の複数の要因が影響するため、精度の高い発生予測が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ○川の水位等から危険性を判断しやすい ○水位を目視にて確認できるため、危険性を認識しやすい

➤ 土砂災害や水害が起きるとどうなるのか、どのような特徴があるのか、市や県から説明

(福岡県八女市 遠久谷行政区)

➤ 過去に現地もしくは、近隣で発生している災害について、当時の写真等を紹介し、災害のイメージを共有

(愛媛県大洲市 三善地区自主防災組織)



防災気象情報を利用して災害から身を守りましょう!

身のまわりにある災害の危険を事前に確認し、防災気象情報を活用して、早め早めに、避難など安全を図るために行動することが重要です!

大雨に関する気象情報

大雨注意報

大雨警報(土砂災害)

大雨特別警報(土砂災害)

土砂災害警戒情報

土砂災害警戒判定メッシュ情報

記録的短時間大雨情報

土砂災害から身を守る

土砂災害警戒判定メッシュ情報

記録的短時間大雨情報

大雨特別警報(土砂災害)が発令されたら、速やかに避難し、避難先で安全を確認するまで避難先で待機する。

大雨特別警報(土砂災害)が発令されたら、速やかに避難し、避難先で安全を確認するまで避難先で待機する。

河川の増水・氾濫から身を守る

洪水注意報

洪水警戒情報

洪水危険情報

洪水発生情報

洪水注意報

洪水警戒情報

洪水危険情報

洪水発生情報

➤ どのような状態になったら、どのような情報が発令されるのか、気象台から時系列に整理されたパンフレットを用いて説明

(愛媛県大洲市 三善地区自主防災組織)



(参考) 平成27・28年モデル地区での情報提供の実績

災害に関する法律等について知ることができる

- 日常生活では聞き慣れない災害に関する法律や制度についても、防災関係機関から説明

土砂災害防止法とは

区域の種類 ハザードマップで確認できます

土砂災害警戒区域 通称：イエローゾーン

(土砂災害により、住民の生命・身体に危害が生じるおそれがある土地の区域)

○市町村により、危険の周知や警戒避難体制の整備が行われます。

八女市:1732区域(立花町:641区域)(H28.7.29現在)

土砂災害特別警戒区域 通称：レッドゾーン

(土砂災害により建築物に損壊が生じ、住民の生命・身体に著しい危害が生じるおそれがある土地の区域)

○特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

八女市:1575区域(立花町:595区域)(H28.7.29現在)

- ハザードマップに記載されている「土砂災害警戒区域」とは何か、定めている法律は何か、市や県から説明 (福岡県八女市 遠久谷行政区)



- なぜ、想定しうる最大規模の降雨を示す必要があるのか、その背景と定めている法律の内容について、国土交通省から説明

(愛媛県大洲市 三善地区自主防災組織)

水防法の改正の概要

◆水防法等の一部を改正する法律
平成27年5月13日成立、5月20日公布、7月19日一部施行、11月19日完全施行

改正前	改正後
<p>(浸水想定区域) 第十四条 国土交通大臣は、第十条第二項又は第十三条第一項の規定により指定した河川について、都道府県知事は、第十一条第一項又は第十三条第二項の規定により指定した河川について、洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保し、又は浸水を防止することにより、水災による被害の軽減を図るため、国土交通省令で定めるところにより、当該河川の洪水防制に関する計画の基本となる降雨により当該河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を浸水想定区域として指定するものとする。</p>	<p>(洪水浸水想定区域) 第十四条 国土交通大臣は、第十条第二項又は第十三条第一項の規定により指定した河川について、都道府県知事は、第十一条第一項又は第十三条第二項の規定により指定した河川について、洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保し、又は浸水を防止することにより、水災による被害の軽減を図るため、国土交通省令で定めるところにより、想定最大規模降雨(想定し得る最大規模の降雨であって国土交通大臣が定める基準に該当するものをいう。次条第一項において同じ。)により当該河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を洪水浸水想定区域として指定するものとする。</p>

避難情報の新たな名称と伝え方のイメージ①

新たな名称

以上①～③の点を考慮
①できるだけ短く
②「避難準備」という言葉は残しつつ
③情報が持つ意味を名称に付記

(変更前)

避難指示
避難勧告
避難準備情報

(変更後)

避難指示(緊急)
避難勧告
避難準備・高齢者等避難開始

記載のイメージ(ハザードマップの例)

避難情報の種類	主な伝達避難行動
避難指示(緊急)	緊急に避難して下流へ、外が危険な場合は、室内の高いところや緊急に避難して下さい。
避難勧告	速やかに避難を開始して下さい。外が危険な場合は、室内の高いところへ避難して下さい。
避難準備・高齢者等避難開始	水に浸出する恐れ、避難を開始して下さい。不安な場合は、身の自由な方、小児や手助けが必要な方など、避難に時間がかかる方、その避難を支援して下さい。と〇〇川(川名)に在住の方は(※)など、避難開始前、避難開始後は、速く安全な場所に避難して下さい。また、避難開始前、避難開始後は、速く安全な場所に避難して下さい。また、避難開始前、避難開始後は、速く安全な場所に避難して下さい。また、避難開始前、避難開始後は、速く安全な場所に避難して下さい。

(※)避難に余裕が上乗せする等、早急の避難が必要となる地区がある場合に記載

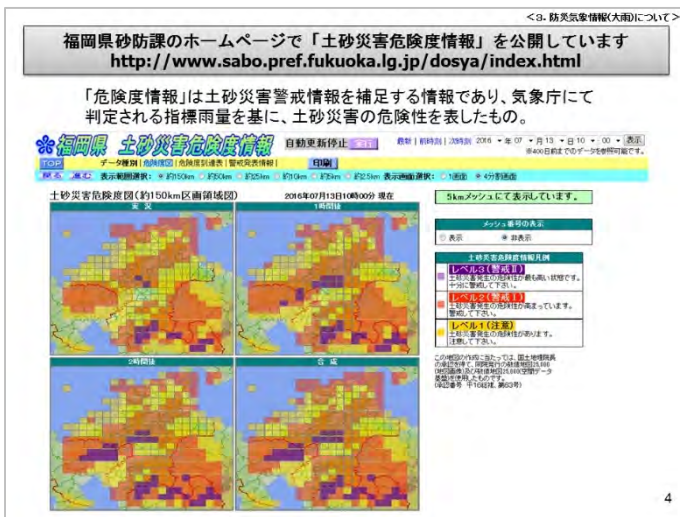
- 平成28年12月に見直された避難情報の名称について、翌月に開催されたワークショップにて、内閣府から説明

(愛媛県大洲市 三善地区自主防災組織)

(参考) 平成27・28年モデル地区での情報提供の実績

災害情報の入手先を知ることができる

- 各関係機関が整備しているwebにおける情報収集についても、パソコン画面や写真を用いて必要な情報にアクセスするための手順を紹介
- 自治体で取り組んでいる避難対策を周知、普及する場としても活用



- 県のホームページで提供している災害情報や避難情報について、写真を用いて説明 (福岡県八女市 遠久谷行政区)

- 県が整備している緊急速報メールのサービス、登録方法等をチラシを用いて説明
- ワークショップの場での登録や、自宅で家族一緒に登録することを促す

(石川県小松市 岩淵町町内会)

- 市が取り組み始めた「避難行動要支援者名簿」の活用について、チラシを用いて説明

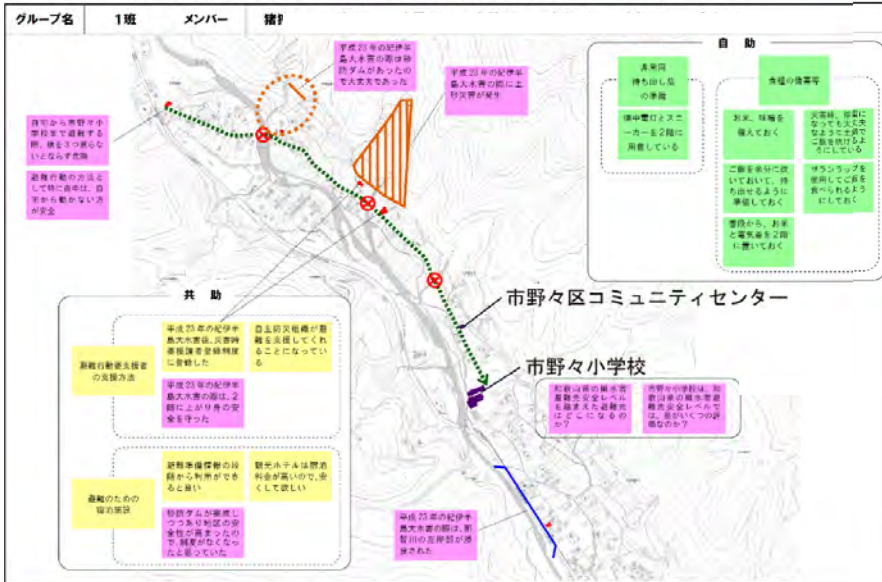
(愛媛県大洲市 三善地区自主防災組織)



情報提供を踏まえた地区住民による意見交換

- 防災関係機関からの情報提供を踏まえ、自助・共助の面では、地区住民は現状、どのような防災対策をしているのか、ワークショップ形式で意見交換を実施

第 1 回 市野々区「自然災害から命を守る！ ワークショップ」 意見交換用 横造紙



(和歌山県那智勝浦町 市野々区)

第 1 回 市野々区「自然災害から命を守る！ ワークショップ」 意見交換用 横造紙

グループ名	4班	メンバー	笠松さん、久保さん、瀬藤さん、地庵さん、長雄さん、松本さん	今後の取り組み アイデアなど
自助	自分自身の命や身の安全を守ること、または備えること	<ul style="list-style-type: none"> 水害対策として、水害発生時の避難場所を確認する。 水害発生時の避難場所を確認する。 水害発生時の避難場所を確認する。 水害発生時の避難場所を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 水害発生時の避難場所を確認する。 水害発生時の避難場所を確認する。 水害発生時の避難場所を確認する。 水害発生時の避難場所を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自助の備えは自分で守るという意識を高める。 自助の備えは自分で守るという意識を高める。 自助の備えは自分で守るという意識を高める。 自助の備えは自分で守るという意識を高める。
	近隣の互いに助け合って地域を守ること、または備えること	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の互いに助け合って地域を守ること、または備えること。 近隣の互いに助け合って地域を守ること、または備えること。 近隣の互いに助け合って地域を守ること、または備えること。 近隣の互いに助け合って地域を守ること、または備えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の互いに助け合って地域を守ること、または備えること。 近隣の互いに助け合って地域を守ること、または備えること。 近隣の互いに助け合って地域を守ること、または備えること。 近隣の互いに助け合って地域を守ること、または備えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自助の備えは自分で守るという意識を高める。 自助の備えは自分で守るという意識を高める。 自助の備えは自分で守るという意識を高める。 自助の備えは自分で守るという意識を高める。
	自治体によるソフト及びハードの対策を組み合わせる防災・減災対策	<ul style="list-style-type: none"> 自治体によるソフト及びハードの対策を組み合わせる防災・減災対策。 自治体によるソフト及びハードの対策を組み合わせる防災・減災対策。 自治体によるソフト及びハードの対策を組み合わせる防災・減災対策。 自治体によるソフト及びハードの対策を組み合わせる防災・減災対策。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治体によるソフト及びハードの対策を組み合わせる防災・減災対策。 自治体によるソフト及びハードの対策を組み合わせる防災・減災対策。 自治体によるソフト及びハードの対策を組み合わせる防災・減災対策。 自治体によるソフト及びハードの対策を組み合わせる防災・減災対策。 	<ul style="list-style-type: none"> 自助の備えは自分で守るという意識を高める。 自助の備えは自分で守るという意識を高める。 自助の備えは自分で守るという意識を高める。 自助の備えは自分で守るという意識を高める。



■ 情報提供に対する感想

(岐阜県安八町 西結中組)

以前から地域でも話題になっていた疑問点などについて、河川管理者の方と直接話すことで解消することができたため安心した。とても良い機会だったと感じている。



4. 実際にまち歩きをして確認してみましょう

まち歩き
に行く前

土砂災害の危険がある箇所（急な斜面・がけ）、**災害のときに危険な場所**（せまい路地、倒壊の危険がある建物、海岸・河川・用水路）を記入

まち歩きの実施

室内の話し合いの結果を踏まえて、地域の危険箇所、指定避難所や指定緊急避難場所、避難経路を確認

まち歩き後

気がついた点を地図に記入した上で、避難場所や避難経路を再確認

指定避難所や指定緊急避難場所、消防署、病院など**災害時に頼りになる施設**を地図で確認

大学の先生とまち歩き

- 岡山大学 自然科学研究科 鈴木茂之教授に協力をいただき、地域の危険箇所について診断してもらう

指定避難所や指定緊急避難場所等への**避難経路**を記入するとともに、緊急的な退避場所や屋内における**安全確保行動**を確認



(岡山県美咲町 川北自治会)



まち歩きの結果をまとめる



避難を想定したまち歩きを実施し、グループワークで結果をとりまとめた
(岐阜県安八町 西結中組区)



5. 「災害・避難カード」をつくってみましょう

自身のカード
を作成

マイマップ
を作成

地区における
避難行動の
手引きを作成

市町村からの避難準備情報・避難勧告・避難指示の発令のタイミングや内容について改めて確認

避難場所までの避難経路については、「マイマップ」として整理

これまでの成果を踏まえると、地区全体の避難行動に関する手引きを作成することも可能

まち歩きで確認した避難場所や避難経路を踏まえ、災害時に提供される情報をもとに、各自がどのタイミングで、どこに避難するのかカードに記載



自然災害から自らの命、家族の命を守るために「自助」として実施しておくべきことについて話し合う

緊急的な退避場所や屋内における安全確保行動についても考える

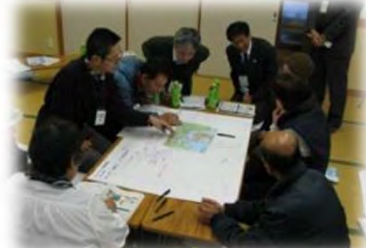
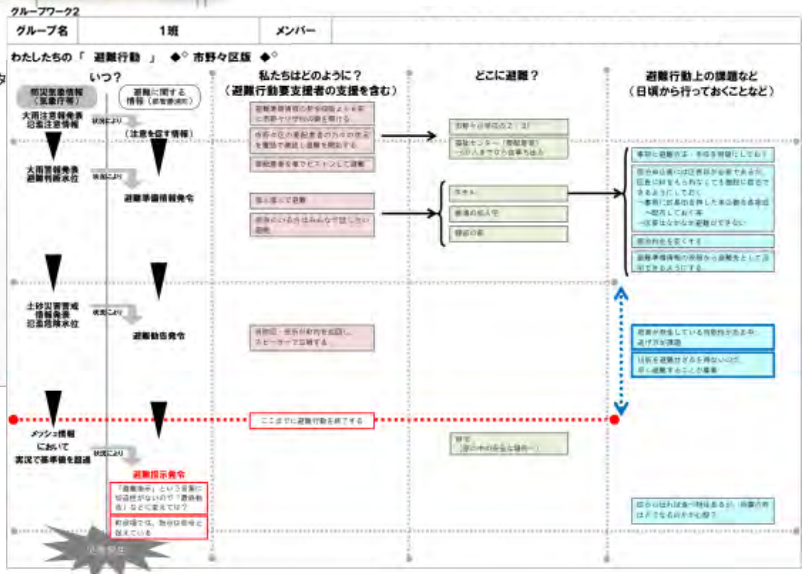
避難体制の構築、要配慮者への声かけなどを含めた情報連絡体制の構築等、「共助」として実施しておくべきことについて話し合う

地区の方々と避難方法を共有

■ 自身の「災害・避難カード」を作成する前に、WS形式で、どのタイミングで、どこに避難するのか検討



A0版模造紙上で
避難行動や、
その課題を共有



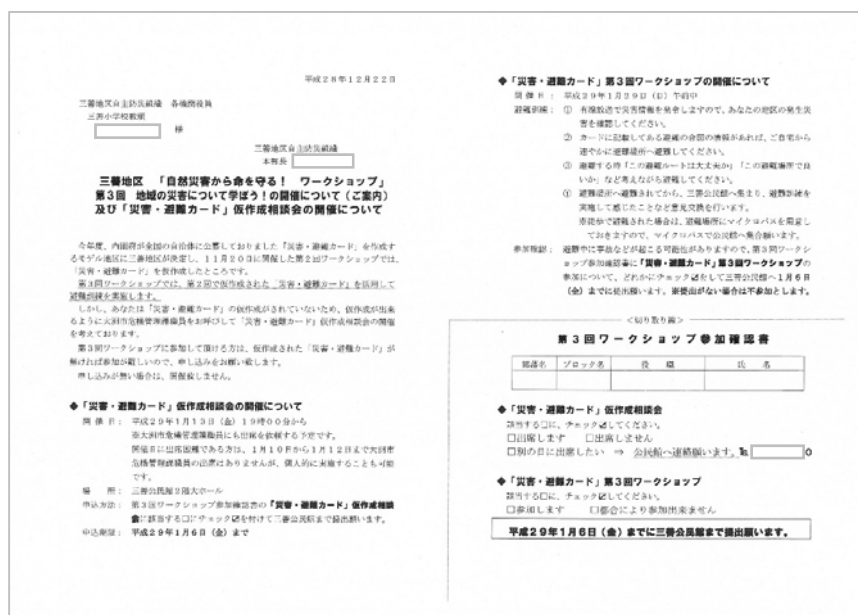
災害・避難カードの地区内への普及・配付

ワークショップとは別にカード作成の場を設ける

- 避難訓練の前に、ワークショップに参加していない方、参加したけれど再作成したい方を対象に、公民館が主催で「災害・避難カード」の作成相談会を実施

- ワークショップで実施する避難訓練の案内とともに、相談会の開催案内のチラシを配付

(愛媛県大洲市
三善地区自主防災組織)



避難訓練実施時にまとめて配付



- 避難訓練実施後に、地区住民の方が集合したところで、自治会の役員より一斉配付
- 配付の枚数を管理し、欠席している世帯には後日個別に配付

(岐阜県安八町 西結中組)

- 避難訓練実施時に、公民館に避難してきた方の受付(安否確認訓練)にて手渡し
- カードには、事前に氏名を記入していたため、未配付の方の把握がしやすく、後日個別に配付

(石川県小松市 岩瀨町町内会)



6. 「災害・避難カード」を使ってみましょう

図上訓練の実施

平成23年9月の紀伊半島大水害を振り返りながら、作成した「避難カード」「タイミング表」「マイマップ」を活用し、室内で模擬的な避難訓練を実施

(和歌山県那智勝浦町 市野々区)

第4回 市野々区「自然災害から命を守る！ワークショップ」 ワークシート ～2011.9 紀伊半島大水害をふりかえる～

グループ名	メンバー				
日付	時刻	気象情報等	被害の状況や町の対応 (避難情報、避難所情報等含む)	当時の避難行動	発生時の町内区
8/26(木)		マリア沖離島の西の海上で台風12号が発生			
8/28(日)		台風半径が500kmを超え			
8/30(火)	7:05 13:04	中心気圧 959hPa、最大瞬間風速 35m/s の大型で強い台風となる 嵐山、後溝注意報発令 高潮注意報発令			
8/31(水)	8:10 8:18	国土情報発表 気象情報発表			
9/1(木)	13:50 16:55	大雨注意報発令 ※※ 時値から雨が降り始め13時台の瞬間雨量3.1ミリ 洪水注意報発令			
9/2(金)	4:15	大雨洪水警報発令			職員参集、警戒体制、大雨洪水警報発令町内放送(4:45)
	4:45		町：警戒体制(警報発令の町内放送)		
	9時頃	お中納い満 当日降雨の瞬間雨量(5.1ミリ)			
	12:30		13時に福祉センター開校(自主避難所) 13時に福祉センター開校(自主避難所)		
	18:00		福祉センター開校(自主避難所) 2日18時時点で累計雨量が最大		
	13:10 18:00 21:50	嵐山 高潮警報発令 大砂浜警察署機動(飲食店の閉鎖)			
7:00		町：町営バス運行(町内放送)			
8/3(土)	10時頃	増加雨量に台風12号が上陸			大雨洪水警報が継続、今後の24時間雨量800ミリ予想により、避難者ゼロでも避難勧告は解除しない
11:25			福祉センター避難者ゼロ問題		
11:55		大雨警報解除(高潮注意報)			
14時頃		雨が降り始める 24時間雨量20ミリ前後			
16:00		16時頃の上谷及青森生活協賛(スノーライン)が高潮警報発令 16時頃の上谷及青森生活協賛(スノーライン)が高潮警報発令			
16:10		24時間雨量27ミリ前後			
18:00		24時間雨量29ミリ前後			
18:20		24時間雨量29ミリ前後			
20:30		24時間雨量29ミリ前後			
22時頃		24時間雨量29ミリ前後			
22:30		24時間雨量29ミリ前後			
22:55		24時間雨量29ミリ前後			
23:50		24時間雨量29ミリ前後			
9/4(日)	1~2時頃	非常に強い雨 ※1、2時台の瞬間雨量約40ミリ	大雨警報発令(町内放送) 町：町営バス運行(町内放送)		
2:30					
2:45					
2:55					
3:00					
3:05					
3:15					
3:25					
3:35					
3:45					
3:55					
4:05					
4:15					
4:25					
4:35					
4:45					
4:55					
5:05					



避難訓練の実施

地区内の防災行政無線や個別受信機の放送に従い、「災害・避難カード」に各自が記載した内容に基づいて、避難行動を行う

(岡山県美咲町 川北自治会)



要配慮者の状況を電話で確認



「災害・避難カード」に記載した場所へ避難

班毎の避難行動と安否確認の訓練(ワークショップ後の取組)

(岐阜県安八町
西結中組)

- ワークショップ実施後に、自治会主催で避難訓練を企画し、ワークショップの報告や災害・避難カードの配付を実施
- 班毎の避難場所に集合し、地区全体の避難場所まで集団で避難を行う訓練を実施



➤ 防災無線を聞き、班別集合場所へ避難



➤ お年寄りの方も、地域で支援しながら避難

時刻	実施内容	行動内容
9時00分	避難勧告発令 避難開始	防災無線にて避難開始の放送(放送は聞こえたか?) 班別に集合、班長指示のもと、【結小体育館前】に避難
班別集合場所 1班: 個人宅 様北道路 2班 個人宅 様東道路 3班: 天満神社前道路 4班: 中組集会所前 5・6班: 結小学校体育館前		
	人員把握 人員報告 避難人員報告	各自避難者カードを記入⇒班長に提出 班長は避難人員把握・報告⇒副区長に 副区長⇒区長に避難人報告
避難訓練終了、中組集会所に移動		
10時00分	あいさつ	町長・町会議員・東分署長
10時15分	防災講話	【揖斐・長良川の治水の現状と対策】 国交省 【繰返された大水害】 木曾川上流河川事務所
11時15分		【水害から命を守るワークショップ】の報告 中組区
12時00分	炊出し	ワークショップで作成した 災害・避難カードを配付
12時20分	解散	

➤ 地区の避難場所では、安否確認のために人員把握を実施



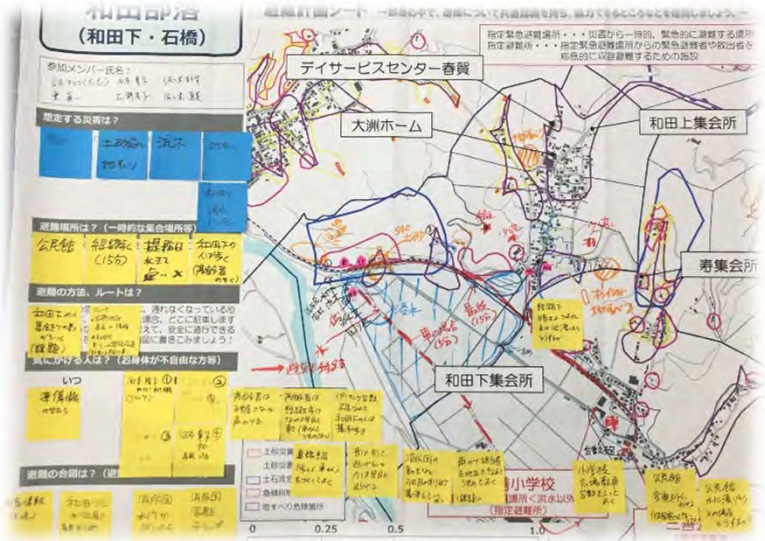
➤ 避難訓練実施後には、地区の方が協力して炊き出しを実施

(仮)災害・避難カードの検証を行う訓練

(愛媛県大洲市
三善地区自主防災組織)

- 第2回ワークショップで作成した(仮)災害・避難カードの内容に従って、避難行動を体験
- 避難開始の合図やタイミングが個人、部落によって異なるため、避難に関する情報を順に発令
- 避難場所到着後、公民館に集合し、最終的に作成する災害・避難カードについて意見交換を行った

- 第2回ワークショップでは、避難計画シートにて、「想定する災害」「避難場所」「避難ルート」「気にかける人」「避難の合図」を部落内で話し合い、各自で災害・避難カードを仮作成



- 各々のタイミングで避難を開始

避難開始の合図	
9時00分	→ 避難訓練開始のアナウンス
9時05分	→ 避難準備情報の発令
9時10分	→ 大雨特別警報の発令
9時15分	→ 自主防災組織が前兆現象を確認しました。
9時20分	→ 避難勧告発令
9時25分	→ 避難指示発令

- 避難の手段も自動車・徒歩など、各々の決めた手段で移動



- 避難場所に集合したら公民館まで移動



- 避難場所から公民館まで距離がある場合は、徒歩避難者に対して送迎車を用意



- 避難訓練を実施してみて、うまくいった点、改善が必要な点を話し合い、災害・避難カードに反映する内容等を整理

地域全体で他地域へ集団避難する訓練

- 防災マップと災害・避難カードが完成し、避難訓練を実施し活用するとともに、参加者全員に配付
- 地区内の避難場所に集合し、隣町のさらに安全な施設まで集団で避難を行う訓練を実施

時刻	想定状況	活動の概要
	「大雨洪水注意報」(8:30) 「大雨洪水警報」(8:35) 「記録的短時間大雨情報」(8:45) 「土砂災害警戒情報」(8:55)	
9:10	「避難準備情報」発令 岩渕町住民(要配慮者)避難開始	一次避難場所へ移動 ↳ 岩渕町公民館
9:20	「避難勧告」発令 岩渕町住民避難開始 ワークショップで作成した災害・避難カードを配付	一次避難場所へ移動 ↳ 岩渕町公民館
9:40	土石流の前兆現象発見(災害情報) ・岩渕町口106から108裏の急傾斜地で落石 ・中海小学校への避難路浸水により避難不可	二次避難場所へ移動 ↳ 桂町公民館
9:45	「避難指示」発令	
10:00	岩渕町住民の二次避難場所への避難完了 (岩渕町の避難訓練終了) 県事業で作成した防災マップを配付	町内会長の人員掌握 訓練終了後、桂町公民館で国、県から講評
	「土砂災害警戒情報」の解除(10:15) 「大雨洪水警報→注意報」の発表(10:25) 「避難指示」の解除(10:30)	
10:30	訓練終了	



➤ 避難場所へ各自避難



➤ 避難していない人に電話で安否確認



➤ 近くに住む人が避難していない場合は、訪問で安否確認



➤ 高齢者は車で避難を支援



➤ 災害時を想定し、非常用持ち出し袋を持参



➤ 防災マップについて、配付時に県より説明

マスコミへの広報 各地区の取組が新聞記事へ

稲城・大丸地区 水害・土砂災害に備え

【大丸自治会】
2015. 12. 24
東京新聞
朝刊武蔵野版



歩いて危険箇所など確認し作成



災害時、避難の仕方を確認し、歩いて危険箇所を確認し、避難カードを作成した。大丸地区の自治会が、稲城・大丸地区の水害・土砂災害に備え、避難カードを作成した。カードには、避難ルートや危険箇所、避難場所などの情報が記載されている。作成には、自治会の役員や住民、消防団員などが参加した。

住民協力し避難カード

災害時、歩いて逃げたいのか、車が通るのを待つのか、避難カードの作成は、稲城・大丸地区の住民が協力し、自治会が中心となって進めた。カードには、避難ルートや危険箇所、避難場所などの情報が記載されている。作成には、自治会の役員や住民、消防団員などが参加した。

浸水時想定歩いて確認



浸水時想定歩いて確認。自治会の役員や住民が、浸水時の避難ルートを確認し、避難カードを作成した。カードには、避難ルートや危険箇所、避難場所などの情報が記載されている。

安八中組

安八中組の役員や住民が、浸水時の避難ルートを確認し、避難カードを作成した。カードには、避難ルートや危険箇所、避難場所などの情報が記載されている。

来月完成へ「避難カード」作り

来月完成へ「避難カード」作り。自治会の役員や住民が、浸水時の避難ルートを確認し、避難カードを作成した。カードには、避難ルートや危険箇所、避難場所などの情報が記載されている。

【市野々区】
2016. 01. 17
朝日新聞
和歌山地方版

避難行動の手引

住民取りまとめ

2011年9月の紀伊半島大水害で犠牲者8人を出した那智勝浦町の市野々区で、内閣府の防災モデル事業として昨秋から進められてきた住民ワークショップが16日、最終回を迎え、参加した住民16人が「わたしたちの避難行動の手引」の取りまとめ作業をした。近



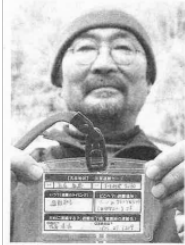
災害時の避難方法を話し合う住民たち。那智勝浦町市野々区

【西結中組地区】
2016. 02. 17
中日新聞
朝刊西濃版

【川北自治会】
2016. 03. 02
朝日新聞
岡山地方版

災害備え「避難カード」

美咲自治会 各自で危険箇所やルート明記



個人用の災害避難カードを手にする川北自治会長の長尾泰典さん。美咲町中

とるべき行動 それぞれ違う

鈴木茂之・岡山大学教授の話 同じ自治会で多少の違いがある。いざ避難という時、自分のところが何が危険かをわからないと動きようがない。災害避難カードの作成は、自宅待機を前提とした上で、危険箇所の点検は自治会では難しいので、県全体に広げていくには行政が専門家をサポートするなどの支援をする必要がある。

川北地区は五つの集落に38世帯106人住む。中山間地で斜面あり、土砂災害の危険性が高い。避難ルートや危険箇所を明記したカードを作成した。2014年に広域で土砂災害があった。死者が多数出た。「同じ川北地区には多岐な所、避難ルートや危険箇所、避難場所や避難場所を点検し、各自で明記したカードを作成した。大規模な土砂災害があった。死者が多数出た。同じ川北地区には多岐な所、避難ルートや危険箇所、避難場所や避難場所を点検し、各自で明記したカードを作成した。

県内3地区で事業化へ。美咲町、川北自治会、西結中組地区の3地区で、災害備え「避難カード」の事業化が進められている。自治会の役員や住民が、浸水時の避難ルートを確認し、避難カードを作成した。カードには、避難ルートや危険箇所、避難場所などの情報が記載されている。

美咲町の川北自治会は、災害時に取るべき行動を記した災害避難カードを作成した。高齢者が多い地区で、住民が避難先や避難のタイミングをあわせることが難しい。県は「取りまとめ」を県民に呼び、自治体の避難力強化につなげよう、新年度から事業化を決めた。



「大東日本震災5周年」を記念して、自治体の職員や住民が、浸水時の避難ルートを確認し、避難カードを作成した。カードには、避難ルートや危険箇所、避難場所などの情報が記載されている。

(参考) まわりの地域にも広めましょう！

先進事例に倣い、他地域へ取組を展開

- 本モデル事業を経験した自治体（県・市）が積極的に、他地域へも展開していくために、独自で取り組みを実施

- 川北自治会の取組をモデルに、「県民避難力強化推進モデル事業」を立ち上げ、県内の3地域で同様の事業を展開

(岡山県)

県民避難力強化推進モデル事業
(国土強靱化/普及啓発・自主防災活動の活性化：概算経費 2,000 千円)

発生災害リスクの高まり	(背景)	県民の防災意識の低さ
<ul style="list-style-type: none"> ■ 降雨の局地化・激甚化で土砂災害、洪水、内水氾濫リスクが増大 <ul style="list-style-type: none"> ・ 広島土砂災害や関東・東北豪雨の発生 ■ 南海トラフ地震の発生確率は今後30年で約7割と想定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 震内最大震度6強、最大津波高3.2m 		<ul style="list-style-type: none"> × 身近な災害リスクを認識していない <ul style="list-style-type: none"> ※H27 県民満足度調査（防災対策編） ・ 地域の災害リスクをよく知っている 10.2% ・ 避難場所・避難経路を確認している 35.2% × 避難勧告等の注目度が低い <ul style="list-style-type: none"> ・ H27 台風第11号襲来時の避難率 1%未満 × 自主防災活動が低迷 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災組織率 66.7%(H27.4:全国 41 位)

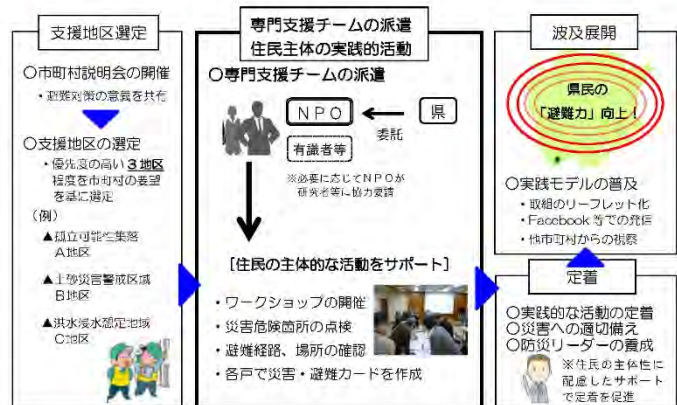
住民自らで適時適切な避難行動がとれる「避難力」の強化が不可欠

美咲町川北自治会の先進事例をモデルに

災害-避難カード	【災害避難カードの作成】
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の災害リスクの認識 ・ 安全な避難ルートの確認

とるべき避難行動の明確化

NPOと協働で実践的な自主防災活動を県全体に普及



- 市野々区での取組を踏まえて、「避難対策ワークショップ運営の手引き（水害編、土砂災害編、地震・津波編）」を作成

- 県内の自主防災組織で、ワークショップを実施し、災害・避難カード等を作成していく活動等を展開

(和歌山県)

(参考) よくある質問 (FAQ)



●△町防災担当
Aさん

「災害・避難カード」の取組を行うにあたり大学の先生にアドバイスしてもらいたいと思います。しかし、私ども●△町では、お付き合いのある方がいません。どうしたら良いでしょうか？

まずは、都道府県の防災担当者にお聞きしてみてもいいでしょうか？ 都道府県の職員にも水害や土砂災害の専門知識をもった方がいます。また、内閣府（防災担当）でも、大学の先生をご紹介ができるかもしれません。ご遠慮なくお問い合わせください。

内閣府
(防災担当)



△●地区自治会
B会長

この事例集で紹介されている各地区の「災害・避難カード」を入手することはできますか？ わが自治会でも取り組んでみたいと思います。

各地区で作成された「災害・避難カード」（みなさんの避難行動を記載するための用紙）は内閣府（防災担当）のホームページ内で公開していく予定です。

内閣府
(防災担当)



自主防災組織
Cさん

地区で「災害・避難カード」の取組を実施しようと思ったら、どのような方に声をかければ良いですか？

まずは、自治会役員、自主防災組織メンバー、女性防火クラブのみなさんなどが中心となり取り組み、その後、地区のみなさんに取組を広めていくのもひとつの手です。また、災害時に避難する際、支援を要する方、女性や中学生（地区の担い手）にも参加してもらって良いかもしれません。

内閣府
(防災担当)



女性防火クラブ
Cさん

この事例集で紹介されている「災害・避難カード」の作成方法、また、全体的な取組の進め方について、具体的に教えて欲しいのですが・・・

内閣府（防災担当）のホームページなどで、今後、紹介していく予定ですが、まずは、内閣府（防災担当）にご相談ください。説明をさせていただきます。

内閣府
(防災担当)



おわりに 「災害・避難カード」のさらに先へ

- ◆ 内閣府（防災担当）では、平成27年度、これから「災害・避難カード」に取り組もうとする自治体の防災担当者や自治会・町内会や自主防災組織のリーダーが参考となるよう「災害・避難カード」の作成方法や取組事例を紹介した事例集を作成しました。
- ◆ また、併せて、平成27・28年度のモデル事業の成果をもとに、各地区で作成した「災害・避難カード」などを、ホームページで公開していく予定です。ぜひ、あなたの地区でも活用してみてください。
- ◆ なお、「災害・避難カード」の作成が終わりではなく、作成した「災害・避難カード」を活用することが重要です。毎年、避難訓練の際に活用してみるのもひとつの方法です。
- ◆ 自然災害による被害の軽減のためには、みなさま自身の適時適切な避難がきわめて重要です！

ワークショップの意見を取り入れて、自治会独自で取り組んだ例

- ワークショップ終了後の話し合いで、避難場所での安否確認を行うためのカードも必要だという意見があり、自治会が独自で作成

(岐阜県安八町
西結中組)

～主な記載内容～

- ・氏名
 - ・性別
 - ・年齢
 - ・支援要否
 - ・避難状況
- 等

平常から記載しておき、各自が定期的に見直していく

中組区		避難者カード				作成日時	
世帯No		住所		電話番号			
班	世帯主	安八町西結		番地			
世帯構成 人員No	氏名	性別	年齢	支援要否 要支援者○	避難状況 避難者は○	備考	
世帯主	1	男・女					
	2	男・女					
	3	男・女					
	4	男・女					
	5	男・女					
	6	男・女					
	7	男・女					
	8	男・女					
	9	男・女					
	10	男・女					
災害発生 (年 月 日)							
避難状況		世帯人数		名		不明者 名	
使用方法・注意点							
① 平時に家族全員記入し事前に整備しておく							
② いざという時に持出せる場所に置いて、避難時は持参すること							
③ 避難完了時に避難者に○を付け、行方不明者は備考欄に明示し班長に提出する							
④ 個人情報です取扱には充分に注意ください							

ワークショップで、その後取り組みの優先順位を決めた例

2016.12.10 遠久谷行政区 第3回ワークショップ		
地域名	メンバー	
グループワーク1 ～災害避難カードをつくる～		
※作成した災害避難カードの活用場面等について意見交換してみましょう。 ※安全確認をこのように行うかについても話し合ってみましょう。		
グループワーク2 ～これから取り組むことを提案する～		
すぐに 取り組むことが できる	1 位	取組名 誰が?どのように?
	2 位	取組名 誰が?どのように?
	3 位	取組名 誰が?どのように?
時間をかけて 取り組むこと	1 位	取組名 誰が?どのように?
	2 位	取組名 誰が?どのように?
	3 位	取組名 誰が?どのように?

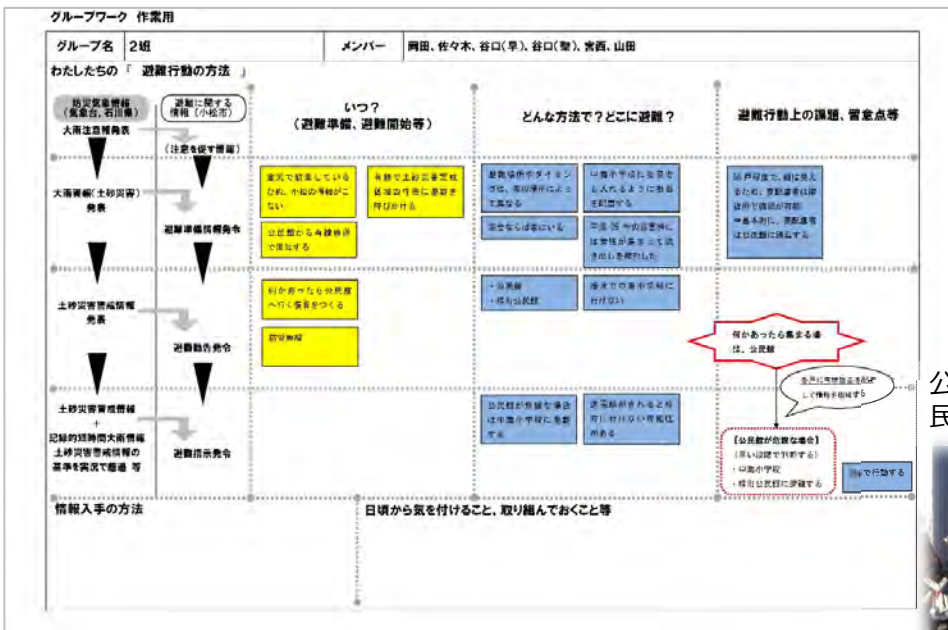
- ワークショップで災害・避難カードを作成するために、意見交換を行ったことにより、地域の課題が明らかになり、住民間の避難に対する考え方の共有ができた
- そこで、今後取り組むべきことについて、

- ① すぐに取り組むことができること
- ② 時間をかけて取り組むこと

の2つの視点で話し合い、優先順位をつけて、今後の活動テーマを提案

(福岡県八女市 遠久谷行政区)

ワークショップで、地区の避難ルールを決めた例



- 災害・避難カードを作成するにあたり、地区の避難ルールについて意見交換
- 各々がいつ、どこに避難をするかの意思統一を図ったところ、隣の施設を活用したいという意見がまとまり、実際に調整を行い、非常時に使用できることになった

(石川県小松市 岩瀨町町内会)

(参 考)

平成27・28年度モデル地区

あなたの町と似たような条件の地区はありませんか？

参考 モデル地区の概要

◆ 全国から応募があった自治会等の中から、数地区を選定し、地元の地方自治体とともに、地区住民を巻き込んだ取組を実施しました。

平成27年度実施地区
平成28年度実施地区



※ この他、愛知県内のいくつかの自治会等においても、同様な趣旨で活動を実施中です。

□地区の概要

- 人 □：8,969人
(男性：4,656人 女性：4,313人)
- 世帯数：4,394世帯
- 高齢化率：24.0% ※以上、平成27年国勢調査
- 取組背景：

- 昭和33年9月狩野川台風による水害を経験
- 災害の危険性をあまり感じられず、地区の防災対策としてはマンネリ化
- モデル事業の実施を通して、専門的な観点から地区の災害危険性を「見える化」し、今後の防災対策に活かしていく



大丸自治会

取組概要

- ◆ 「自然災害から命を守る！ ワークショップ」を全3回開催し「災害・避難カード」「マイマップ」を作成
- ◆ ワークショップに参加していない層にも周知するため、約1,600世帯に配布

第1回 ワークショップ

- 地区で起こり得る災害の危険性を共有化するため、過去に起こった災害と想定される水害と土砂災害について防災関係機関から情報提供
- まち歩きを実施し、地区の災害リスクを確認



防災関係機関から情報提供の後、まち歩きを実施

第2回 ワークショップ

- 稲城市 消防本部 防災課から「災害時における避難勧告等の発令と避難行動の考え方」について情報提供
- 大丸地区における避難方法について意見交換



地図を囲んで避難所までのルートや緊急的な退避場所を検討

第3回 ワークショップ

- 「災害・避難カード」「マイマップ」を実際に各自で作成
- 今後の大丸地区や稲城市における防災対策の取組について意見交換

水害・土砂災害別に各自、避難の合図や避難の方法について検討



広報いなぎ 28.1.15 でモデル事業の取組を紹介

取組のポイントなど

- ◆ まち歩きの結果を一枚の図面に可視化することで、地区の災害リスクを再確認でき、また、地区全体や各自の避難行動の方法を検討するための基礎資料となった。



大丸自治会長から一言

- いつもと違った視点でまちを歩くことで、様々な課題を見つけることができました。
- ワークショップの内容を近隣の方、家族や友人に話し、「災害・避難カード」の輪を広げていきたい。

□地区の概要

- 人 □：438人
(男性：210人 女性：228人)
- 世帯数：140世帯
- 高齢化率：23.3% ※以上、平成27年国勢調査
- 取組背景：
 - 昭和51年9月洪水による浸水被害を経験
 - 町内は全区域が浸水想定区域になっており、河川氾濫による洪水による被害を受けやすい
 - 洪水に対する住民の危機意識が低いことから、防災に対する意識付けが必要。また、避難行動の基準づくりが必要となっておりモデル事業に取り組む



取組概要

- ◆ 「自然災害から命を守る！ ワークショップ」を全3回開催し、地区の避難行動ルールを作成
- ◆ 平成28年4月に地区の避難行動ルールに基づき避難訓練を実施予定

第1回 ワークショップ

- 過去の水害、平成27年9月関東・東北豪雨の概要、ハザードマップ等に基づき水害の危険性を共有化
- 国土交通省、岐阜県、安八町の風水害対策の現状について共有化



勉強会の様子



意見交換の様子

第2回 ワークショップ

- 地区の災害危険性、避難場所や避難経路についてまち歩きを通して確認
- 避難行動のあり方や仕組みについて意見交換



まち歩きの様子



まち歩きを踏まえ
地図に感じたことを記載

第3回 ワークショップ

- まち歩きや意見交換の結果を踏まえた避難行動のルールづくり
- 避難対策の面で、今後、取り組む施策を検討



←避難行動ルール（案）に基づきグループワークを実施

避難行動ルール → は4月以降に全戸配布予定



取組のポイントなど

- ◆ 初回到国土交通省、岐阜県、安八町にレクチャーしてもらい水害の危険性を勉強
- ◆ 全3回を通して、地区の避難行動のルールをとりまとめるとともに、今後、西結中組区として取り組むべきことを検討



西結中組区長から一言

- 結小学校の校歌にも「水と戦い、水を治め」という歌詞があるように、水害はこの地域の宿命である。
- 区民の共通認識を図り、引き続き、水害に対する取組を進めていく。

□地区の概要

- 人 □：661人
(男性：261人 女性：370人)
- 世帯数：321世帯
- 高齢化率：38.0% ※以上、平成27年国勢調査
- 取組背景：
 - 平成23年9月に紀伊半島大水害を経験
 - その後、避難勧告が発令された際は、早めの避難がなされていたが、防災意識が薄れているのが現状
 - 地区住民の防災意識の向上、市野々区の避難体制づくり、自主防災組織の活性化を目指しモデル事業に取り組む



取組概要

- ◆「自然災害から命を守る！ ワークショップ」を全4回開催し、「避難カード」「タイミング表」「マイマップ」とともに、「市野々区 わたしたちの避難行動」を作成
- ◆ワークショップに参加していない層にも周知するため、約300世帯に全戸配布

第1回 ワークショップ

- 学識経験者、和歌山県や那智勝浦町から、土砂災害のメカニズムや防災の取り組みなどについて情報提供
- 「自助」「共助」「公助」の現状や課題について意見交換



京都大学藤田教授による講演

意見交換の様子

第2回 ワークショップ

- 国土交通省紀伊山地砂防事務所、和歌山地方気象台や那智勝浦町から、那智川地区の防災対策事業の概要、防災気象情報や避難勧告等を踏まえた避難行動の考え方などについて情報提供
- 市野々区における避難方法について意見交換



地図を用いた意見交換

第3回 ワークショップ

- 「避難カード」「タイミング表」「マイマップ」を実際に各自で作成
- 市野々区全体の避難方法についても意見交換



「避難カード」等の作成風景

第4回 ワークショップ

- 「市野々区 わたしたちの避難行動（案）」に基づき、区全体の避難方法について、参加者全員で意見交換
- 紀伊半島大水害を振り返りながら、第3回目で作成した「避難カード」「タイミング表」「マイマップ」を活用し、室内で模擬的な避難訓練を実施



図上訓練の様子



作成した手引き

取組のポイントなど

- ◆「避難カード」等の作成を通して、地区住民自身の避難のタイミングや方法を確認できた。
- ◆要配慮者の避難支援方法について検討するきっかけとなり、最終的に「市野々区 わたしたちの避難行動」を作成。今後、引き続き、見直していく予定となっている。

市野々区長から一言

- ワークショップ形式で意見交換することで、様々な意見を聴取することができ、地区の防災対策を検討する上で参考となった。
- 一方で参加者が限定的であり、今回の取組を地区内で広く普及していくことが課題である。



□地区の概要

- 人 □：123人
(男性：62人 女性：61人)
- 世帯数：40世帯
- 高齢化率：42.3% ※以上、平成27年国勢調査
- 取組背景：
 - 昭和47年7月集中豪雨及び平成10年10月台風10号による水害・土砂災害を経験
 - 自治会の防災マップもあるが、平成22年時点のものであり、更新が必要な状況
 - 専門的な観点から地域診断を実施するとともに、モデル事業を活用し避難訓練に取り組む



取組概要

- ◆ 「自然災害から命を守る！ ワークショップ」を全3回開催し、「災害・避難カード」を作成
- ◆ 全世帯で「災害・避難カード」を作成し避難訓練を実施

第1回 ワークショップ

- ・ 地域防災メンバーが岡山大学の鈴木教授と一緒に3地区をまわり、専門的な知見から危険箇所を診断
- ・ 危険箇所等を地図に記載するとともに、危険箇所を踏まえた避難経路を検討



専門家による地域診断の様子

第2回 ワークショップ

- ・ 3地区ごとに地区住民がまち歩きを実施し、危険箇所や避難場所・避難経路を確認
- ・ グループごとに避難行動の方法を検討



まち歩きの様子



グループワークの様子

第3回 避難訓練

- ・ 第3回までに全世帯で「災害・避難カード」を作成
- ・ 「災害・避難カード」を活用して全世帯が参加する避難訓練を実施



避難訓練の様子



災害対策本部での避難完了報告



各世帯で作成する個人用の「災害・避難カード」

取組のポイントなど

- ◆ 地質学の専門家に地域診断を実施してもらい、結果を図面にとりまとめた。
- ◆ 「災害・避難カード」を全世帯の地区住民が作成するとともに、「災害・避難カード」を活用した避難訓練を実施することで、地区住民の防災意識が向上



川北自治会長から一言

- 専門的な目で地区の危険な場所を確認できた。
- 「災害・避難カード」モデル事業の取組は、地区住民の防災意識を高める機会となった。

□地区の概要

- 人 □：281人
(男性：99人 女性：182人)
- 世帯数：53世帯
- 高齢化率：61.6% ※以上、平成27年国勢調査
- 取組背景：
 - 地区を流れる河川の氾濫やため池の決壊により浸水する可能性がある。また、土砂災害警戒区域を有しており、孤立の危険性がある
 - 石川県事業で作成した地区の「防災マップ」と連携して「災害・避難カード」を作成し、避難対策の強化を図る



取組概要

- ◆ 「自然災害から命を守る！ ワークショップ」を全2回開催し「災害・避難カード」を作成
- ◆ 第3回目は、「防災マップ」と「災害・避難カード」を活用した避難訓練を実施

第1回 ワークショップ

- 防災マップの内容と活用方法について、石川県河川砂防課より説明
- 「災害・避難カード」モデル事業のワークショップの内容、防災マップと合わせた避難対策の進め方について説明
- 防災マップや災害・避難カードに記載すべき内容について意見交換



先行して作成された
防災マップの確認か
ら実施



避難行動について
意見交換

第2回 ワークショップ

- 地域の災害情報について、石川県、金沢地方気象台、小松市より情報提供
- 防災マップを参考にし、避難行動について話し合い、その内容を災害・避難カードに記載して作成



災害・避難カード
の作成

第3回 避難訓練

- 防災マップと災害・避難カードを活用し、地区で決めた避難行動を実施
- 石川県より土砂災害の危険性に関する講演

防災無線を合図に
公民館へ避難



公民館に集合した後に
隣町の公民館へ避難

作成した災害・
避難カードを配
付



取組のポイントなど

- ◆ 石川県事業との連携を図り、「防災マップ」の作成と合わせて、モデル事業を実施
- ◆ 避難訓練の際に、町会で作成した名入りの「災害・避難カード」を全戸に配布



岩瀨町町内会長から一言

➢ 過去の災害を思い起こしつつ、これからも防災の意識を高めていかなければいけない。避難訓練の結果から見てきた改善点を踏まえて、避難の方法についてさらに検討していきたい。

□地区の概要

- 人 □：3,225人
(男性：1,625人 女性：1,600人)
- 世帯数：1,538世帯
- 高齢化率：21.8% ※以上、平成27年国勢調査
- 取組背景：



- 内閣府では、避難時の大混雑や多数の孤立者の発生が懸念される首都圏等における、洪水や高潮氾濫からの大規模かつ広域的な避難のあり方等を検討するため、中央防災会議のもとに、「洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難検討ワーキング」を設置。ワーキンググループでの検討を踏まえ、首都圏の他、全国の同様の課題を抱えている地域で参考となるよう避難のあり方を整理し基本的な方針や制度改善に繋げていく
- ワーキンググループとも連携し、先駆的に水害対策に取り組んできた東新小岩七丁目町会の知見やこれまでの経験を紹介いただくとともに、荒川下流域における大規模水害発生時の避難のあり方について、町会で課題となっている部分については、関係機関と協議・連携しながら、より具体的に検討し、実行に移していくこととした

取組概要

- ◆ 平成28年度は、東新小岩七丁目町会「犠牲者ゼロ」の実現に向けたワークショップを2回開催し、「大規模水害時の避難に関する住民調査結果」を踏まえ、江東5区内や5区外へ避難する場合のメリットや課題について意見交換
- ◆ 平成29年度も継続してワークショップを開催し、各個人や世帯にとって最適な避難行動の方法とともに、「犠牲者ゼロ」の実現に向けた今後の取組を検討

第1回 ワークショップ

- 地区で起こり得る災害の危険性を共有化するため、過去に起こった災害と想定される水害について防災関係機関から情報提供
- 葛飾区における避難に関する考え方や取組を情報提供

第2回 ワークショップ

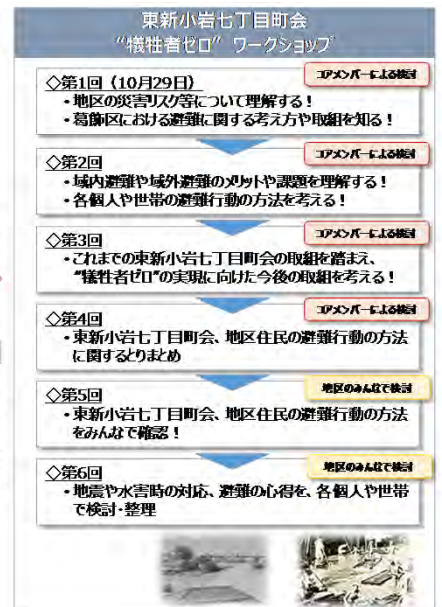
- 「大規模水害時の避難に関する住民調査結果」の報告
- 江東5区内や5区外へ避難する場合のメリットや課題について意見交換

平成29年度へ

洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難検討ワーキング

- ◇第1回（9月13日）
・ワーキンググループ全体の検討事項、進め方
 - ◇第2回（12月頃）
・「二次的な人的被害リスク」を軽減させるための課題整理と改善方策
 - ◇第3回（2月頃）
・「避難行動の実現困難度」を軽減させるための課題整理と改善方策
 - ◇第4回（東夏季）
・域内避難と域外避難の組合せの考え方
 - ◇第5回（東秋季）
・適切な避難行動に近づけるための社会環境の整備
 - ◇第6回（東冬季）
・全体の制度設計、とりまとめ
- ワーキングでの論点
- ・地区毎の避難開始タイミングの考え方
 - ・立退き避難時の避難緩和の考え方
 - ・浸水区域内に留まらざるを得ない場合の考え方
 - ・市区町村の境界を越えた避難所確保の考え方
 - ・避難・救出のための氾濫水制御の考え方
 - ・国・都府県の関わり方 など

基本的な
考え方の
提案
↓
連携
↑
地域から
問題提起
↓
具体的な
避難方法
等の提案



取組のポイントなど

- ◆ 大規模水害に対する認識、家族の状況及び避難先、江東5区外へ避難する際の条件など、アンケート調査を実施。平成29年度、各個人や世帯にとって最適な避難行動の方法とともに、「犠牲者ゼロ」の実現に向けた今後の取組を検討



東新小岩七丁目町会 会長から一言
 ▶ 大規模水害時の避難に関して考える良いタイミングであり、引き続き、防災関係機関と連携しながら検討を進めていきたい。



□地区の概要

- 人 □：961人
(男性：478人 女性：483人)
- 世帯数：360世帯
- 高齢化率：31.7% ※以上、平成27年国勢調査
- 取組背景：
 - 過去に河川氾濫による内水被害が度々発生
 - 地区の面積が広範にわたっており、場所によって避難を要する災害のケースが異なる
 - 地区内の各部落、各自の避難体制づくりを行うために、本モデル事業において災害・避難カードの作成を行う



取組概要

- ◆ 「自然災害から命を守る！ ワークショップ」を全3回開催し「災害・避難カード（名刺版・冊子版）」を作成
- ◆ 地区を構成する4つの部落ごとに話し合い、それぞれの地域の実情に沿った避難行動を検討

第1回 ワークショップ

- 災害リスクについて、松山地方気象台、国土交通省、大洲市より情報提供
- 地域の危険箇所、抱える災害リスク、想定する災害規模、避難行動について、部落ごとに意見交換



関係機関から配布されたパンフレット



避難計画シートの作成

第2回 ワークショップ

- 愛媛県より土砂災害に関する情報提供
- 避難場所、避難ルート、避難の手段、気にかかる人について話し合い、地区の避難計画を作成
- 地区の避難計画を踏まえて、各自で仮の災害・避難カードを作成



災害・避難カードの仮作成

第3回 避難訓練+ワークショップ

- 仮の災害・避難カードを用いて避難行動を実施し、実際の避難ルート、避難場所の安全性や行動にかかる時間などを確認
- 避難訓練を振り返り、避難計画の見直しと、災害・避難カードに必要な情報や形態について意見交換

避難訓練後にカードの本作成



名刺版

冊子版
(裏面に情報入手先を記載)

避難訓練の実施と振り返り



取組のポイントなど

- ◆ 仮のカードを作成した上で避難訓練を実施、その結果を検証し、活用しやすいと思うカードを作成
- ◆ 範囲が広いため、部落毎に異なるマップを掲載した災害・避難カードを作成



三善地区自治会長から一言

➢ 3回のワークショップで、地区、各部落の避難行動の方法についてできあがったので、各部落で活用していきたい。

□地区の概要

- 人 □：85人
(男性：44人 女性：41人)
- 世帯数：27世帯
- 高齢化率：36.5% ※以上、平成27年国勢調査
- 取組背景：

- 平成24年7月の九州北部豪雨では、道路が寸断され、数日間孤立状態が続き、それにより、地区内に安全な避難場所や、避難経路がないことが課題となった
- 安全な避難場所の確保など、今後、避難に対する取り組みを進めていくきっかけとして、モデル事業に取り組む



立花町遠久谷行政区

取組概要

- ◆「自然災害から命を守る！ ワークショップ」を全3回開催し「災害・避難カード（携帯用・自宅掲示用）」を作成
- ◆災害・避難カードを作成し、これから取り組むことについて話し合い、地域全体に対して提案

第1回 ワークショップ

- 内閣府、福岡県、八女市より避難に関する情報提供
- 情報提供を踏まえて、避難の情報の入手や、避難のタイミングについて意見交換



意見交換の様子



避難行動に関する意見交換

第2回 ワークショップ

- 自宅周辺の危険箇所、想定する災害、災害リスク、避難行動について意見交換
- 防災等に関する情報の入手方法、避難のタイミング、避難先、避難経路、避難の手段等について意見交換



災害・避難カードの作成

第3回 ワークショップ

- 携帯用・自宅掲示用の災害避難カードの作成、カードの活用方法、活用場面について意見交換
- 今後の災害に備えて、平時から考えておくこと、取り組んでおくことを考え、短期的な取組と中・長期的な取組に分けて整理



これからの取組の提案

【遠久谷地区】災害避難カード（避難のタイミング、避難方法の確認）					
わたしの災害避難カード <small>避難先・避難経路（記入欄）</small> <small>大規模な災害発生時</small>	いつ？ <small>（避難のタイミング等）</small> 行動のタイミング <small>＜避難の人数＞</small> <small>＜避難方法＞</small>				
どこへ？ <small>（避難場所）</small>	どのように？ <small>（避難方法、避難場所等）</small> 避難方法 <small>＜避難の人数＞</small> <small>＜避難場所＞</small>				
家族（頼りになる人）の緊急連絡先 <table border="1"> <tr> <th>氏名</th> <th>連絡先（自宅・携帯等）</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	氏名	連絡先（自宅・携帯等）			持ち出すもの （避難先で手に入らないもの） <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
氏名	連絡先（自宅・携帯等）				
名前 <input type="text"/> 住所 <input type="text"/> いつ？ （避難の合図） どこへ？ （避難場所）	誰を？ <input type="text"/> 連絡先は？ <input type="text"/> 災害・避難カード （携帯用）				
緊急時、避難時の安全を誰に連絡する？ <small>※避難先・避難経路が不明な場合は、避難先・避難経路を事前に確認してください。</small> 災害・避難カード （自宅掲示用）					

取組のポイントなど

- ◆これから取り組むことは、すぐ取り組めることと、時間をかけて取り組むことに整理
- ◆それぞれ取組みたいことを1位～3位まで順位づけをして提案



遠久谷行政区長から一言

➢ この集落は、26軒のうち、65歳以上が1/3強を占める限界集落です。これまで以上に隣近所へこまめに声を掛け合い、いざという時にいち早く避難ができるようにしていきたい。

問合せ先

内閣府（防災担当）

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1（中央合同庁舎8号館）
電話：03-5253-2111（調査・企画担当）
<http://www.bousai.go.jp>

